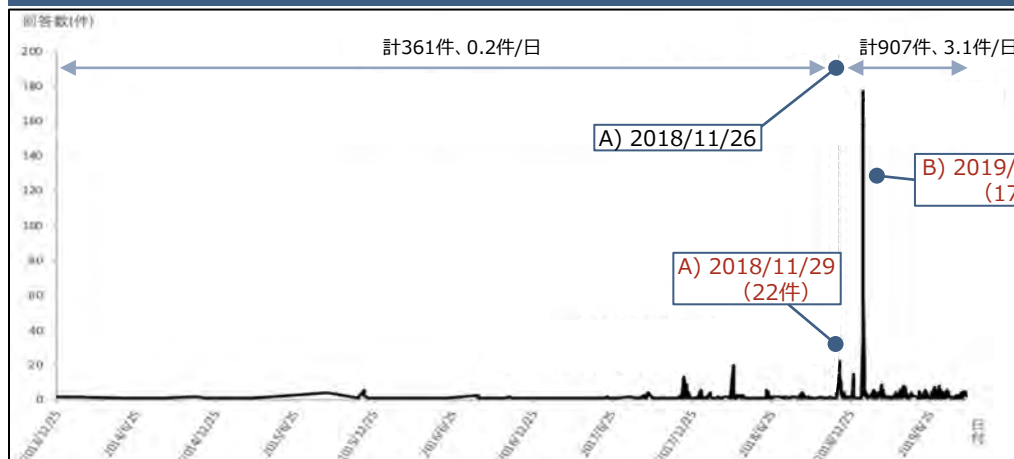


「ソーシャルリスニング」 概要

- 本年度の調査では、「我々は生命科学の倫理を <どのように> 語ってきたのか？」という問いのもと、日本における生命倫理の議論に関する報道について以下のことが明らかになった。
 - 日本における生命倫理の議論は、報道の初期以降は具体的な社会議論は記事の俎上に表れておらず、形式的に繰り返されていることが観察された。倫理の議論は未だ「儀礼的」すなわち倫理的な「問題が問題だ」という循環論法の域を出ていない可能性が示唆された。
 - 世界に伍する日本独自のELSIの議論を展開し、それを日本のイノベーションの駆動力に展開しようとするならば、現状の科学政策において萌芽期にのみELSIの議論を展開される設計となっていることは問題である。ELSIの議論は、研究と併走して行われ続けるべきものであり、そのための制度設計を考慮する必要。
- 海外における議論の調査として「ゲノム編集に関するQuora, 知呼という英語圏・中国語圏を代表するソーシャルQ&Aサイトの分析」を実施。
 - 分析結果：ソーシャルQ&Aの発言内容にはHGEのメカニズムに関する説明、討論が多く、オンライン知識共有プラットフォームという位置づけのソーシャルQ&Aサイトの特徴に合っていた。また、『Quora』、『知乎』のトピック全体を見ると、多くのトピックはヒトゲノム編集に関して一般的に議論される知識の話題であり、両者の間に共通点もあれば、相違点も見られた。

- 「ゲノム編集ベビー事件」に関しては、『Quora』より『知乎』（占有率ランキング5位、6位、7位）のほうで多くの話題で議論され、同事件を倫理的課題を中国社会が意識したきっかけとなったとも言えるが、同時に政治・社会システム批判の要素も強い。
- 一方、HGEの用途とそれが及ぼす影響に関しては、『知乎』（8位、10位）より『Quora』のほうで多くの話題で議論されており。これは長い時間に渡って英語圏の社会で議論が蓄積され、想像力の範囲が分岐しているためと推察される。

『知乎』回答数時系列推移（2013/12/25～2019/9/18）



- A) 2018/11/26：「ゲノム編集ベビー事件」の報道
- B) 2019/ 1/21：「広東省調査グループが初期調査結果を発表」

『知乎』トピックの占有率ランキング

1	Business, Market (0.146)
2	Mechanism of HGE (0.131)
3	Negative or side effects (0.123)
4	Operation, tools (0.116)
5	CRISPER babies (0.1)
6	Laws, regulations (0.084)
7	Ethical responsibility (0.083)
8	Gene therapy (0.079)
9	Patented technology (0.06)
10	Genetic testing (0.058)

本資料は、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターからの委託により、株式会社三菱総合研究所が調査を行った結果をまとめたものです。

本資料においては、調査によって得られた情報に関して考察を加えていますが、あくまで限定された視点に基づく一考察であり、必ずしも国立研究開発法人科学技術振興機構、社会技術研究開発センターおよび委託先の公式見解を示すものではありません。

また、本資料の掲載情報を利用して受けた一切の損害について、国立研究開発法人科学技術振興機構、社会技術研究開発センターおよび委託先は何ら責任を負うものではありません。